

## 伝達講習「平成 28 年度健康教育指導者養成研修」

伊豆市立熊坂小学校 後藤 明子、掛川市立第一小学校 辻野 克美

【健康教育の充実の在り方及び研修の進め方】【保健教育の在り方】 アクティブラーニングの視点から、様々な機会をとらえ学習していく。(カリキュラムマネジメントを充実させていく)

【保健管理の在り方】 学校における健康課題を明らかにすることが健康診断の役割として重要である。

【学校における子供の心のケア】 災害急性期には、担任や養護教諭の顔や姿が見えるようにし子供の不安を減らす、日常の回復をめざすことが大切である。

【学校における医薬品教育のあり方】 すべての子供たちが医薬品について正しく理解し、使用できるよう、教育していく必要がある。

【児童虐待への対応】 通告から支援まで、学校は児童相談所とあらゆる段階で協力していく。

## 講演「ルポ保健室ー保健室から見えてくる現在の子供像ー」

講師 ノンフィクションライター 秋山 千佳 氏

### 1. 保健室ほど子供の困難を見渡せる場所はない

なぜそういう場所になるのか？⇒子供たちが「素」を出せる場だから、家庭や地域に頼れる大人がいない子供は保健室でSOSを出す。



### 2. 貧困と暴力の家で育った子が表情を取り戻すまで

表情がなく、能面のような中学生女子。14年間わかってもらったことがないが、「この人なら信頼できる」と思える養護教諭と出会い、虐待を受けてきたことを告白した。

⇒安心安全な場所を見つけたことで笑えるようになった。

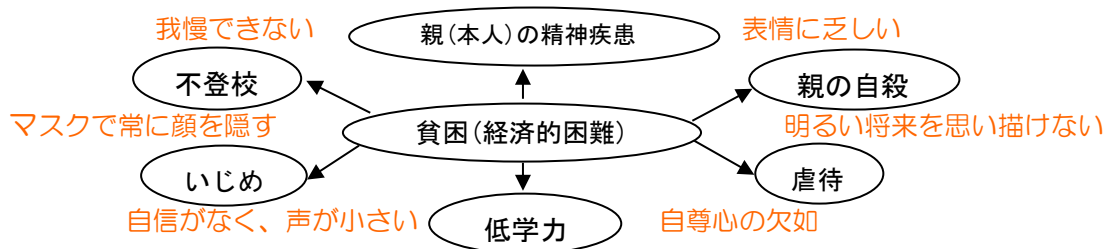
### 3. 子供の困難は見ようとしなければ見えない

#### 「困った子」は、本当は「困っている子」

地域住民や教師から「けしからん」と言われる子

当たり前前の方が当たり前前に保証されてこなかった子

困っている子の共通項として、根っこに貧困がある。貧困から困難は広がっていく。



### 4. 保健室だからできること

#### 子供を育む「手間ひま」3つのポイント

- ・子供の持つ力を信じる
- ・その力を出せるまで待つ
- ・自己肯定感を育めるように寄り添う

養護教諭への甘やかし批判があるが、「甘える」ことは子供にとって「心を癒す」ことである。どこでも甘えることが許されない子供たちが保健室を閉め出されてはならない。

学校は学力をつけるだけの場所ではない。むしろ困難を抱えた子にとっては、もっと大切な役割がある。それは、自己肯定感を育むこと、社会性を身につけることである。

保健室・養護教諭に対する社会の認識は十分とは言えない。

保健室という場の潜在能力・養護教諭の重要性をもっと訴えていかなければならない。